

報 告 事 項

人員配置等 (令和5年4月1日時点)	事業所名	日中サービス支援型指定共同生活援助事業所 にじいろホーム瀬戸
	利用者定員	20人
	開所年月日	令和4年11月1日
	日中の世話人と生活支援員の人数及び平均勤続年数	世話人： 6人(平均勤続年数 4.5か月) 常勤換算 3.52人 生活支援員： 10人(平均勤続年数 4.4か月) 常勤換算 3.22人
	夜間の世話人と生活支援員の人数及び平均勤続年数	世話人： 3人(平均勤続年数 3.6か月) 常勤換算 1.07人 生活支援員： 5人(平均勤続年数 4.8か月) 常勤換算 0.98人
利用者の状況	障害者支援区分の内訳(※令和5年4月1日時点)	非該当： 0人 区分1： 0人 区分2： 0人 区分3： 3人 区分4： 9人 区分5： 4人 区分6： 3人
	主な障害種別(それぞれの日中GHで過ごす人の人数)	身体： 2人(2人) 知的： 11人(11人) 精神 6人(6人) 難病等 0人(人)
	年齢構成・性別	20歳未満： 0人(男： 人・女： 人) 20代： 6人(男： 4人・女： 2人) 30代： 3人(男： 2人・女： 1人)40代： 4人 (男： 3人・女： 1人) 50代： 5人(男： 2人・女： 3人) 60代： 1人(男： 1人・女： 人)
	医療的ケアの必要な利用者の人数(※令和5年4月1日時点)	0人
	強度行動障害のある利用者の人数(※令和5年4月1日時点)	0人
	令和4年度 新規入所者数と退所者数	入所者： 19人 退所者： 0人
	高知市の支給決定者数と高知市外の支給決定者数(※令和5年4月1日時点)	高知市： 15人 高知市外： 4人
	令和4年度 短期入所の定員数、実利用者数、延べ算定回数	定員数： 2人 実利用人数： 2人 延べ利用人数： 2人
	計画相談支援について	別法人の計画相談による作成： 12人 自法人の計画相談による作成： 6人
		セルフプラン： 1人 ケアプラン： 人

事業所の特徴	事業所の運営方針	具体的な内容 職員が24時間365日常駐しており、入居様が安心して生活して頂ける体制を整えています。
	事業所として特に大事にしていること	具体的な内容 中重度の障害をお持ちの方や、身体介護が必要な方でも職員が24時間常駐していることにより、日中、夜間を通して安全で安心して生活していただくことができますようにしています。
常時の支援体制の確保	日中、夜間、土日を含めた常時の支援体制の確保について	具体的な内容 日中、夜間、土日も常時の支援体制の確保ができています。
支援の質の確保について	職員の資格取得状況	具体的な内容 介護福祉士、看護師、実務者研修の資格を取得している職員が在籍しています。
	令和4年度 職員の質の向上について (内部研修, 外部研修への参加, その他)	具体的な内容 内部研修では、月1回の動画研修、新入社員研修を実施しています。
	令和4年度 苦情及びヒヤリハットの件数	苦情件数: 3 件 ヒヤリハット: 3件
	苦情やヒヤリハットの対応例	具体的な内容 音に対する苦情が一番多く、戸を閉める、イヤホン、イヤマフ、耳栓の利用を含め双方と面談し対応しています。 ヒヤリハットは転倒に関するものが多く、立ち上がり時の声掛けや、動線の確保、席の位置の配慮をし、対応しています。 他者の部屋をのぞいたり、入ろうとする方がおり、自室にいるときは内側からカギをかけてもらうよう声掛けしている。当事者に対しては注意、見てわかるように張り紙を貼るなどして対応しています。

	<p>重度化・高齢化等で日中をホーム内で過ごす利用者への支援はどのようにしているのか。</p>	<p>具体的な支援の内容 比較的若い方が多く、日中をホーム内で過ごすことがあまりなかったが、必要に応じてバイタルチェックや食事、水分等の補給のため訪室し声掛け、状況把握、安否確認している。</p>
<p>利用者の主な日中の活動について</p>	<p>外部の日中活動サービス等の利用状況について (他の日中活動サービスの利用を妨げていないか)</p>	<p>外部の日中活動サービスの利用者人数 0名 主な外部の日中活動サービスの種類: 外部の日中活動サービスの利用ニーズを把握しているか している。 把握している場合今後の対応について 自立を目指して生活をしている方には、外部のサービスの利用も今後検討していきたい。</p>
	<p>同一敷地内に設置した通所事業所について (該当する場合のみ記載)</p>	<p>事業所名:にじいろホーム瀬戸 サービス種別: 生活介護 利用定員:20名 事業所での日中活動の具体的な内容 入浴、昼食の提供 季節に応じたイベント、個々に応じた創作活動、体操、散歩など 日中支援型GH入居者の当該通所事業所の利用状況 利用人数 20名 通所頻度 週に 5 日程度</p>
<p>他の事業所との連携</p>	<p>相談支援事業所や外部の障害福祉サービス事業所との連携の状況について</p>	<p>具体的な内容な連携状況の事例を記入 ご家族との関係性が希薄で外出や買い物がなかなかできない方の移動支援の利用を相談したり、訪問看護の利用の相談など、関係機関と情報共有、連携している。</p>
	<p>体験的な利用ニーズに対応しているか</p>	<p>昨年度の体験利用人数 0 名 体験利用の具体的な内容 R5年3月よりショートを受け入れを開始したため、受入数自体がまだ少ない。</p>

地域に開かれた運営について	実習生やボランティアを受け入れているか。	受入人数 0名 受入事例
	地域住民やボランティア団体との交流の機会が確保されているか。	具体的な内容 開所して日が浅く、コロナのこともあり現状あまりできていない。今後、地域住民の方との交流に参加していきたい。
短期入所の併設について	地域で生活する障害者を積極的に受け入れているか。☒	年間の利用者数 3名 具体的な内容 入院先からリハビリを経て在宅での生活が決まっていたが、住宅補修工事が退院時に間に合わず、ショートでの受け入れになった。在宅で生活ができるようになってからも、ご家族の介護の軽減を考え、定期的なショートの受け入れを実施しています。
	緊急的利用のニーズに対応しているか。	緊急受入人数 1名 緊急受入事例 障害を持たれた息子さんと母親が同居していたが、母親が急遽入院になり、息子さん一人では自宅での生活が難しいとの話があり、長期での受け入れに現在対応しています。
	利用者の金銭管理については、本人同意の上、帳簿等により適切に管理されているか。また、判断能力が著しく低い利用者については、成年後見制度の利用等の支援を行っているか。	金銭管理の支援方法 有料での金銭管理を行っている。出納帳の記録、レシート管理、毎月ご家族に出納帳のコピー、レシートを郵送している。成年後見人制度を利用している方もいる。 成年後見制度の利用支援及び利用者数 ・利用支援事例等(有)・無) ・有の場合の支援内容記載(利用者数 2名)

